

# 国立精神・神経医療研究センターにおける 治験市民講座を通じた治験の普及・啓発の取組み

— 治験市民講座参加者への意識調査を通じて —



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

津野良子<sup>1)</sup>・藤生江理子<sup>1)</sup>・山岸美奈子<sup>1)</sup>・中村治雅<sup>1), 2)</sup>・住吉太幹<sup>2)</sup>・中込和幸<sup>1)</sup>

1) 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床研究推進部

2) 国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター

## 1. 目的

当センター病院の臨床研究・治験推進室では「国民・患者への臨床研究・治験の普及啓発」の一環として、治験市民講座を開催している。今回、国民・患者の治験市民講座に対する意識および認知度、講座開催の普及・啓発への効果、今後の課題について検討した。



■ 1日平均外来患者数： 473名  
■ 入院病床数： 468床

## 2. 調査方法

治験市民講座の参加者を対象に  
無記名アンケート調査を実施  
(倫理委員会での承認番号：A2014-080)

### 【主な調査項目】

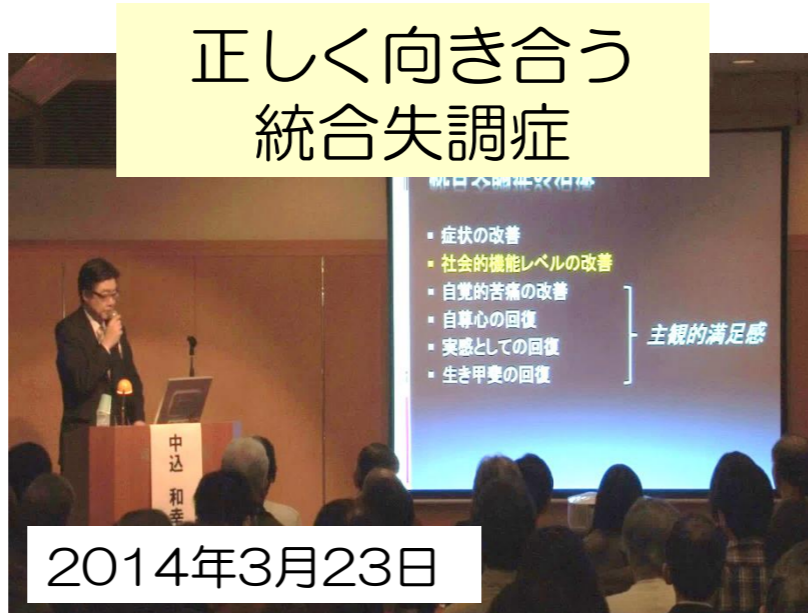
- ①参加の動機
- ②興味の対象分野
- ③治験や新薬に対する意識
- ④治験への理解度

## 3. 対象とした市民講座



2013年9月1日

参加74名、回答57例  
(回答率77%)



2014年3月23日

参加263名、回答197例  
(回答率75%)



2014年10月25日

参加171名、回答129例  
(回答率75%)

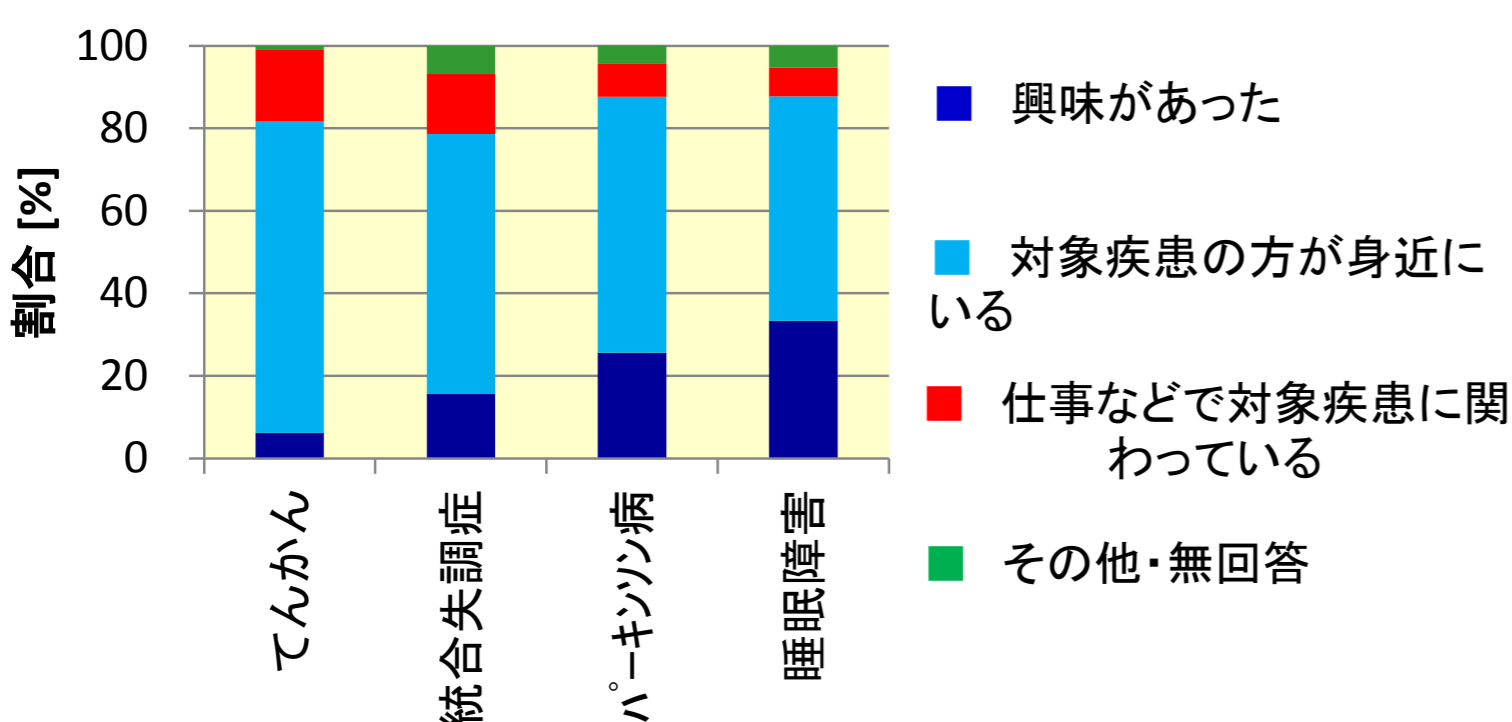


2015年2月21日

参加者75名、回答64例  
(回答率85%)

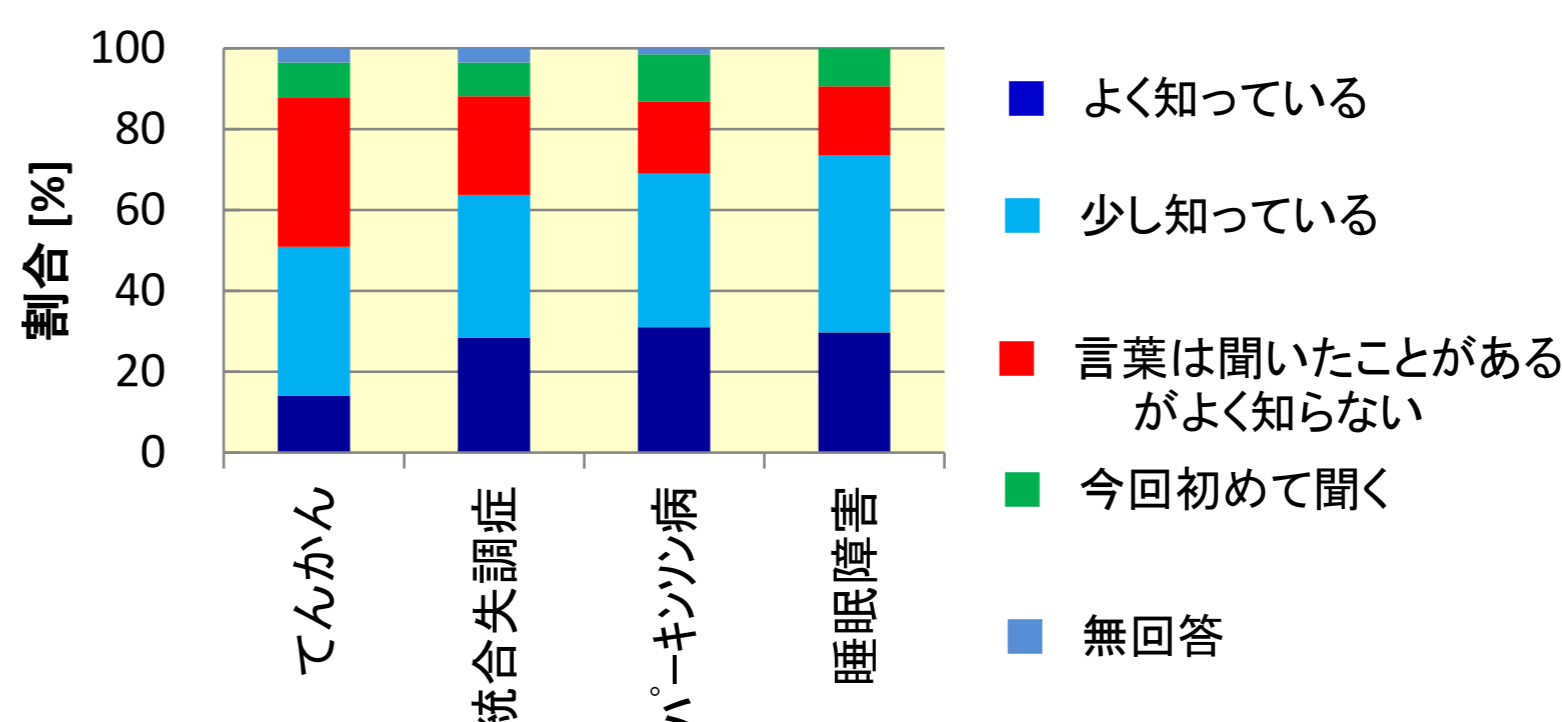
## 4. 調査結果

### 市民講座への参加動機は？



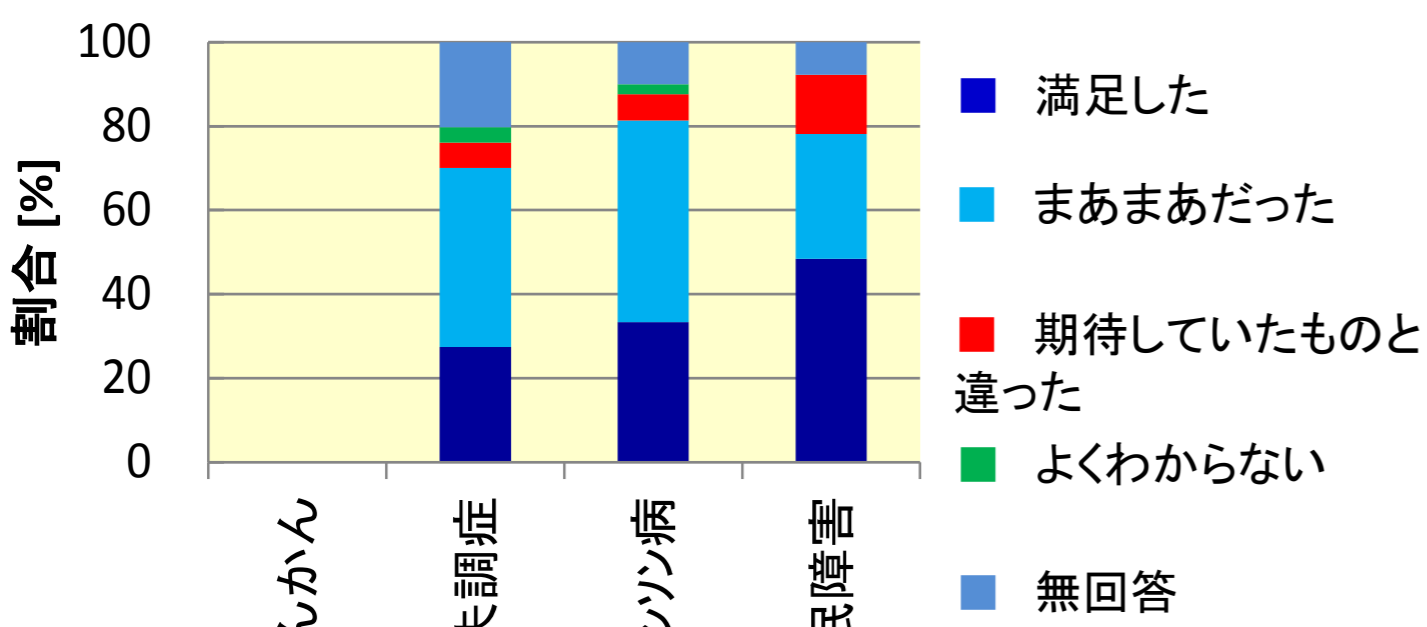
「対象疾患の方が身近にいる」(54~75%)が最も多い

### 治験という用語を知っていたか？



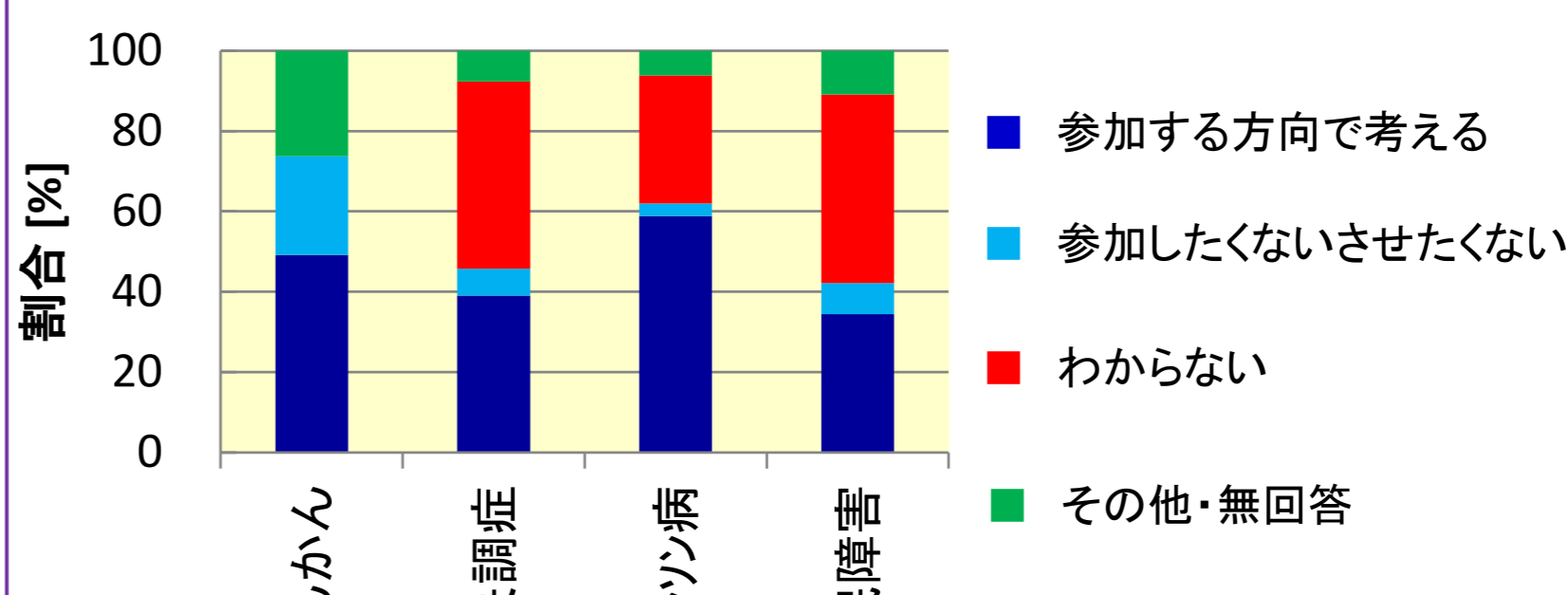
「言葉は聞いたことがあるがよく知らない」あるいは「今回はじめて聞く」が27~45%

### 治験について聴講されてどうだったか？



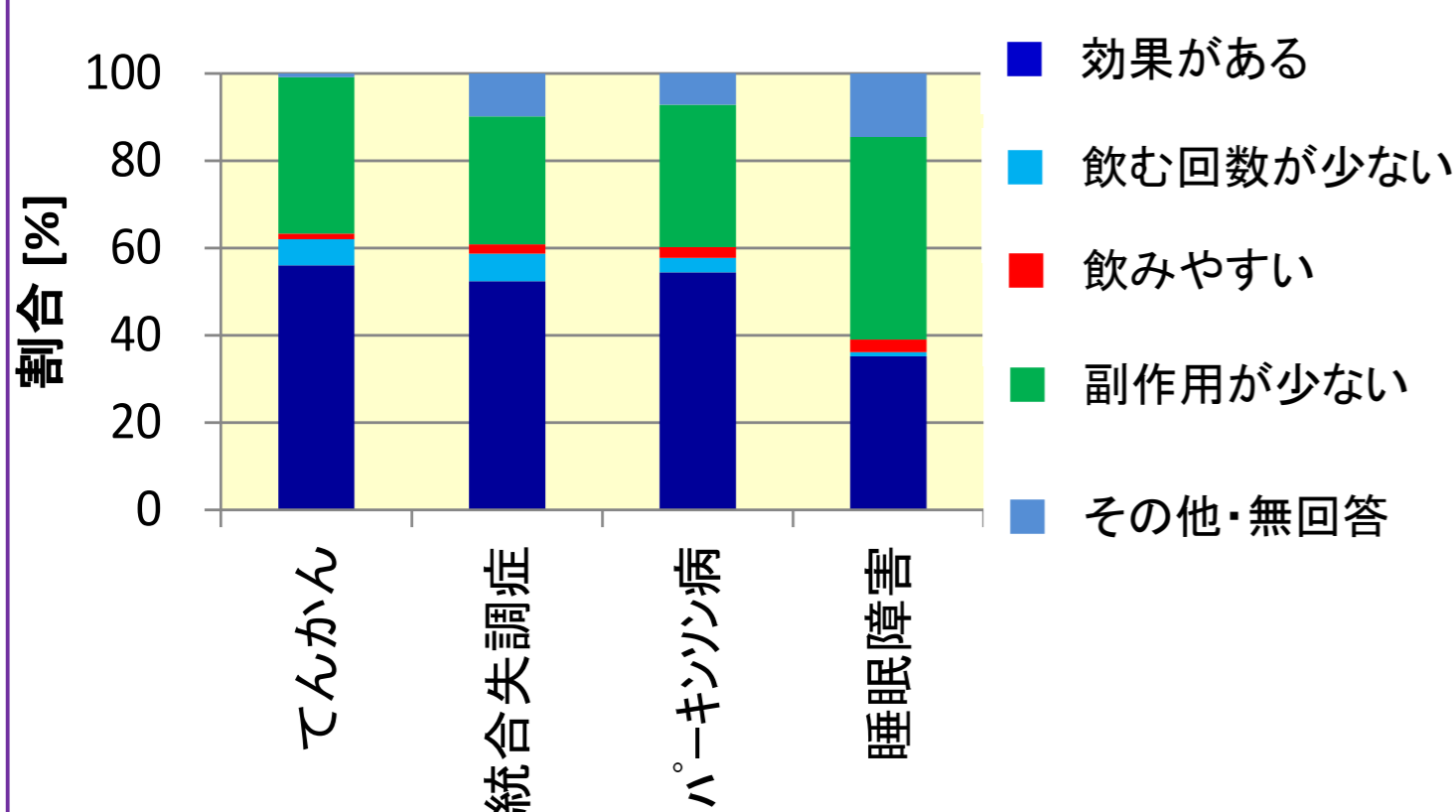
「満足した」「まあまあだった」が過半数超えた

### 自分や家族に治験の話があったらどうするか？



「参加する方向で考える」(34~59%)が「参加したくない・させたくない」(3~8%)を上回った。

### 新薬に期待することは何か？



- ・てんかん、統合失調症、パーキンソン病では「効果がある」(52~56%)が最も多い
- ・睡眠障害では「副作用が少ない」(46%)が最も多い

## 5. 考察

今回のアンケートでは、当院の専門性を生かしたテーマで市民講座を開催することで、治験に対する市民の意識をさまざまな角度から確認することができた。

- ①治験の認知率についてはまだまだ高いとはいえない。
- ②治験の講演に対しての満足度は過半数を超えた。
- ③講演終了後には治験の参加に前向きな意見が見られた。

以上の結果より市民講座での情報発信は有用であるといえる。疾患別での分析より、治験や新薬においての参加者の意見が異なる傾向が見られたことから、治験に対する認知度や理解度を向上させるためには、疾患の背景や特徴を生かした啓発活動が必要ではないかと考える。今後、治験参加促進に向けて継続して市民講座を開催し、得られたアンケートを疾患別に分析をし、質の高い情報提供の場となるよう工夫を続けていきたい。

